

The Power of Music

第18回



日本抗加齢医学会評議員
ピアニスト、音楽療法士

板東 浩
Hiroshi Bando



徳島大学卒業、ECFMG資格取得後、米国でfamily medicineを臨床研修。専門領域はアンチエイジング、糖質制限、音楽療法、スポーツ医学など。アイススケート選手として国体出場(1999～2003)。第9回日本音楽療法学会大会長(2009)。第34回PTNA全国決勝大会入選(2010)、第3回ヨーロッパ国際ピアノコンクール(EIPIC) in Japan銀賞(2012)。第7回日本音楽医療研究会大会長(2014)。日本プライマリ・ケア連合学会大会長(2017、高松)。Endocrinology and Metabolism Open AccessのEditor-in-Chief、印刷物2,000以上、英語論文80以上。
<https://www.pianomed-world.net/>

「天使の歌声」

私がずっと住んでいる故郷・徳島で、まだ中学生なのにびっくりするような歌姫がいます。まさに「ミューズ」の神さまから才能を与えられたgifted childなのです。その人は、カラオケの歌番組でチャンピオンとなり、高く評価されている「丸山純奈」さんです。

私はTVを見てこんなことが実際にあるのかと驚き、直ちにファンになってしまいました。その透き通った綺麗な声には、審査員もTVの視聴者も筆者までもが涙が溢れてきてしまうほど。不思議だけれど、確かに人の琴線を震わせるパワーがあるのは間違いありません。

それはなぜだろうか、というのと考えてみました。

- ・音響学的にビブラートに理由があるのか
- ・人が聴こえない2万ヘルツ以上の高周波の関与か
- ・歌声が覚醒&深層心理に直接働きかけるのか
- ・歌詞の意味を十分に考え吟味し、心が伝わるのか
- ・伝える喜びを詩として詠っているのか

そもそも芸術や芸能の魅力を分析して、数字で解析することは難しいものですね。おそらく、いくつかの原因が合わさってこのようなパワーに融合されることで、普通では予想できない現象をきたすのかもしれない。

原因をはっきりと特定できないけれども、確かに彼女のハートが伝わってきます。だから「奇跡の歌声」とか「天使の声」と呼ばれているのでしょう。

アンジェラ・アキ「ふるさとの色」

このたび丸山さんが歌う音楽番組の企画として『もっと四国音楽祭2018』がありました。その中で魅力ある「四国のテーマソング」が発表されました。

その曲を書き下ろしたのは、徳島出身のシンガー・ソングライターであるアンジェラ・アキさん。かつて紅白歌合戦にも出場しましたが、その後勉強したいと米国へ。現在はかねてからの目標であるブロードウェイミュージカルの制作に携わっているそうです。

そんなアンジェラさんが、四国の美しい情景を込めて作詞・作曲を担当。そして、とても意義深い四国の歌となる「ふるさとの色」が誕生しました。「夢を追いかけてながら、日々の暮らしの中で目を閉じれば今もまぶたの裏にハッキリと見える、ふるさとの色。心はいつも繋がっている確信があり、このふるさとの絵はがきが皆様の心に届きますように」との思いが込められています。

実際に四国の映像とともに「天使の歌声」とも言われる丸山さんの歌声を聴きました。すると、心の奥底に眠っている懐かしく不思議な感覚が甦ってきたかのようです。音楽療法的には、音楽は顕在意識や潜在意識など、いずれのレベルにも直接働きかけるとされています。おそらく、歌詞と旋律が一緒に私たちの心の奥底に染み入るのでしょう。

♪ 天使にラブ・ソングを…

以前に「天使にラブ・ソングを…(原題:Sister Act)」というコメディ映画が。殺人事件の現場を目撃したクラブ歌手が、修道院で巻き起こす騒動を描いたものです。その後ミュージカルのバージョンが日本にも上陸し、2019年秋～冬の再演が予定されています。

そもそも天使とはどんな存在でしょうか？ 天の使い、天国から遣わされた者ということですね。そして、シスターとは神に仕える敬虔な雰囲気をもつ女性です。一方、主演のゴールドバーグはSister Actとあるように、その存在だけで演技している状態で、人々にhappinessをもたらすシスターであると言えるでしょう。

一方、日本にも優れた映画があります。「天使の恋」は本来日本のケータイ小説で、これを原作とした映画(2009)も制作されました。ご覧になった方もおられるのでは。

ほかに日本の生活に関係ある天使として、天使のブラや天使のはねなどが。ちょうど天使の羽について思い出しましたので、引き続き話を進めてまいります。

♪ 天使の羽

ガブリエルは神の御前にいる最高位の天使であり、ミカエル、ラファエル、ウリエルと並ぶ大天使です。いつもは大天使ガブ

リエル(Archangel Gabriel)と呼ばれており、「神の力強き者」という意味を示します。スピリチュアルの世界に住み、人の傍らにいて、天と人をつなぐ「天の使い」としてメッセージを伝える役割を演じてきました。

その中でもっとも有名なのは「受胎告知」ですね。大天使ガブリエルはマリアのもとを訪れ、大切なメッセージを伝えました。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」と。

世界中で有名な絵画(図1)を示します(Fra Angelico, The Annunciation, late 1430s, fresco, Museo di San Marco, Florence, Italy)。古の時代に描かれた名画が現代でも鑑賞でき、数百年にわたり人々の心に寄り添ってきました。何と稀で貴重なことでしょう。

♪ オペラの「天使の声」

あなたは映画「カストラート」(ユーロスペース、1995)をご覧になったことがありますか。18世紀に活躍したソプラノ歌手ファリネッリ(本名:カルロ・ブロスキ)を主人公に描いたもの。人並みはずれた3オクターブ半の音域で一世を風靡し、波乱に満ちたカルロの生涯を描いた秀作でした。

そもそもカストレーション(castration)とは去勢を意味します。その起源は古代メソポタミアで牛馬をおとなしくさせるために行われたものです。紀元前には、アッシリアの女王が男性奴隷を去勢したとの記録も。この方法が中国に伝わって宮廷の宦官となり、アラブ世界ではハーレムの女性たちの番人の役割へと発展したのです。

中世のヨーロッパでは教会で女性が歌うことは禁じられており、高音域のパートとしてボーイ・ソプラノがまず誕生しました。しかし子どもは声量が小さく、次に大人の男が裏声で歌う「ファルセット歌手」が登場。その後16世紀末には子どもの

図1 Fra Angelico, The Annunciation



The New York Public Library DIGITAL COLLECTIONSより

図2 Johann Friedrich Franz Burgmüller



Wikipediaより

時期に処置を受けたカストラートが歌手として成功し、「天使の声」と賞賛されたのです。彼らの歌声が貴婦人を熱狂・失神させたとの逸話も。

ただ、医学的にも彼らの人生の面でも、さまざまな問題が生じたのは事実です。映画では著名な作曲家ヘンデルとの確執も描かれました。実は、モーツァルトをはじめ多くの音楽家が、カストラートの声をイメージしながらオペラを作曲したのです。つまりカストラートという存在があったからこそ、現在の歌唱技術が完成され、音楽の歴史が作られたと言っても過言ではありません。

最後のカストラートはアレクサンドロ・モレスキ教授 (1858 ~ 1922) だったとされます。彼は唯一歌唱の録音を残し、私はYale大学図書館に残されているその声を聴取。男性と女性、子どもの三位一体から構成されるような声で、崇高で官能的な強烈な印象を覚えました。カストラートに関する書籍やCD、資料が入手できるのでお勧めします。

ピアノ曲「天使の声」

日本では多くの子どもがピアノを習い、バイエルやブルグミュラーの曲が演奏されてきました。ブルグミュラーの本

名はJohann Friedrich Franz Burgmüller (1806~1874)で、通常Friedrich Burgmüllerと呼ばれます(図2)。父は音楽劇場の監督で、音楽一家でした。

彼が作曲したピアノ教則本「25の練習曲 作品100」が知られます。とても標準的な音楽で、入門レベルとしては最適ですね。その中で21番が「天使の声」なのです。私もこの曲が好きだったことを思い出します。

なお、楽譜の最初の部分について、聴いた記憶がある人は多いはず。わが国では、このエレガントな雰囲気は天使のイメージ作りに影響しているのでしょう。

「天使の声」をアナリーゼ

ここで、本曲についてアナリーゼ(分析)してみましょう。この作品はそもそも、どんなイマジネーションで作曲されたのでしょうか(図3)。

楽譜の最初には曲想を表す標語が記載されています。イタリア語でarmonioso [アルモニオーソ] とあり、協和的に、和声的に、調和してという意味合いです。日本語ではハピフヘホとハ行の発音がありますが、他の言語ではhがあっても読まれないことも。フランス語では挨拶のハローがアロー

図3 天使の声 Harmonie des anges The harmony of the angels

となります。また文字hの記載が抜け落ちることもあり、armoniosoの最初にhを付けてみるとハーモニーとなることに気づきますね。

Allegro moderato (アレグロ モデラート) は、moderate (中等度に)、allegro (朗らかに、快活に、軽快に速く) ということです。他方、アレグロはat a brisk tempoという英語表現がぴったりかもしれません。医薬品の抗ヒスタミン薬で、アレグラ (フェキシフェナジン) が有名で、花粉症になって本薬を飲んだらあっという間に効き目がありそうな気がしませんか。

楽譜をみると、分散和音が上行したり下行したり動いています。メロディの音符の配置が美しいですね。ウィンドチャイムのように、宝石の音と光がキラキラと散りばめられているかのようです。天国 (heaven) とはこんなイメージでしょうか。

分散和音が最初に下行して後で上行したら、奇異に感じるかも。3連音符で1小節に12個の音があるのがちょうど良いのです。16個ならせわし過ぎ、8個なら間延びしてしまうことに。曲の構成はバランスに優れた中庸の道 (golden mean) のように思われます。

印をつけた音符の青と緑はベースの音で全体の音楽をまとめる基礎となります。これぐらい動かないのが頃合です。もし、1小節ずつベースの音が変わると落ち着かないもの。赤色と黄色は重要なメロディの流れを示し、この数学的な美しさも堪能してください。

第1～2小節のメロディは滑らかで、静かで綺麗な波のように優雅で女性的ですね。一方、第3～4小節では波が砕けて、太陽の光を浴びて水滴が輝き、男性的です。それぞれelegant beauty, vivid activityと表現してみました。

このように、全体的に優れた調和を有する秀逸の音楽と言えます。調べが和やかで、安寧で幸福感に浸ることができるような気分になりませんか。

🎵 おわりに

このたび徳島が輩出した「天使の歌声」の話題から、大天使の神さま、オペラの天使の声、ピアノ曲の天使の声などについて、ご紹介させていただきました。幼い頃から音楽に親しんでくると、数字で表せないため説明できないが、何かしら神々しい雰囲気や波長、空気を感じる経験を得たりします。それは科学的には一種の電磁波かもしれません。かつて、ヒトが有していた鋭敏な感受性のレセプターが現代では使われず、遺伝子も休眠しているのでしょうか。

物質・生命・意識を統合した「叡智の海・宇宙」という観点から、現代では未だ測定する手段や技術が発見されていない状況です。しかし、ICTやAIが急速な発展を遂げており、数百年後には少なくともその一部が解明されているであろうと思っています。

参考文献

- 1) 板東浩 (1996) ホルモンと天使の声, 内科専門医会誌 8(1) : 102-103.
- 2) CD 盤 「カストラートの時代」 EMI, TOCE-8693, 1995
- 3) Bando H (2018) Combined diabetic treatment with low carbohydrate diet, exercise and music therapy. Diabetes Updates 1(1) : 1-2. doi : 10.15761/DU.1000103